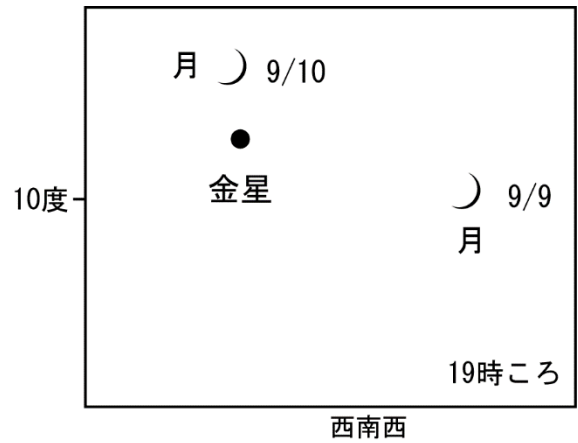


10日(金)、西の空で、月と金星並んで輝く

10日(金)の空が暗くなり始める19時ころ、西の低い空に三日月が輝いています。この三日月のすぐ下に輝くのが、金星です。右の図のように、高さが低いので見つけにくいかもしれませんが、天気恵まれば簡単に見つかるはずです。ただし、見晴らしがいい所でないと見えないので、西の方向に障害物がないところで観察してください。

なお、前日の9日(木)も、月を見ることができます。ただし、図のように、金星から少し離れて右側に見えているでしょう。そして、11日(土)になると、月は金星の左上に離れて、今回の接近は終了となります。



17日(金)~18日(土)、南の空で、月と土星、木星が並んで輝く

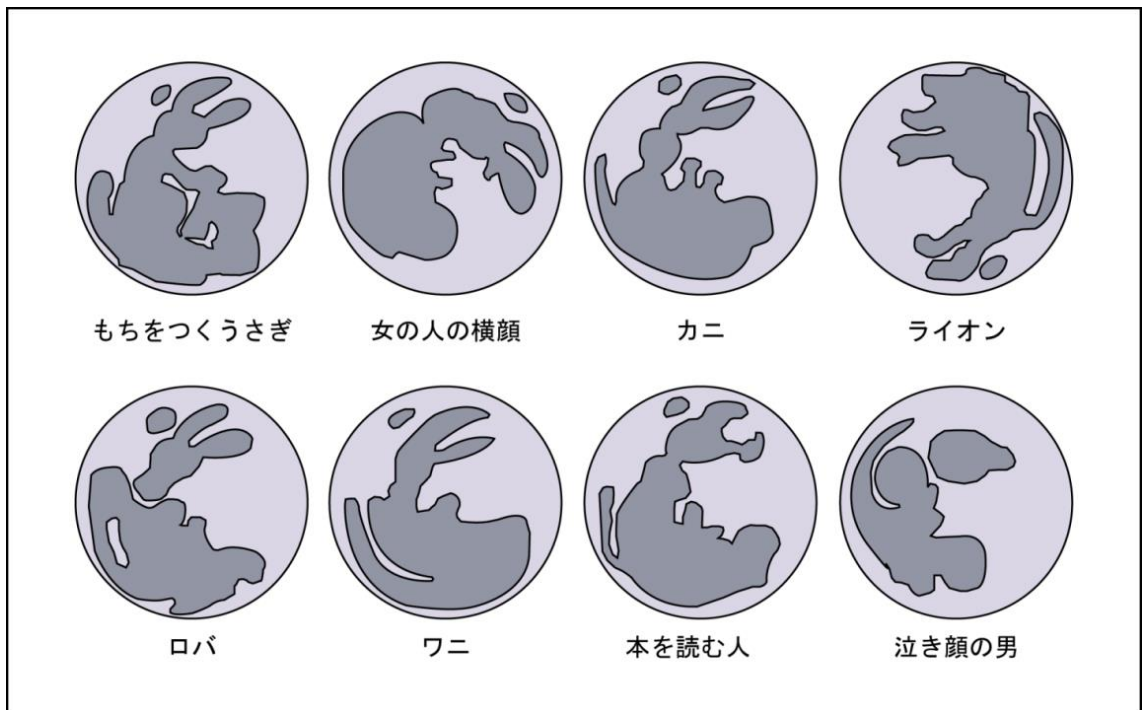
17日(金)の20時ころ、ほぼまん丸の明るい月が南の空に輝いています。この月の右側に見える星が、土星です。土星は1等星より明るいのですが、月がまぶしいほど明るいので、注意深く探してください。そして、月から左側へ少し離れて輝く星が、木星になります。木星は大変明るいので、すぐに分るでしょう。そして、翌日の18日(土)の20時ころには、月が木星の下に移動します。この日は、月と木星がかなり近い所で並び、たいへん目立つ存在となるでしょう。

21日(火)、中秋の名月

中秋の名月は、旧暦の8月15日で、いつもほとんど真ん丸の姿となります。今年の中秋の名月は、9月21日の火曜日となります。

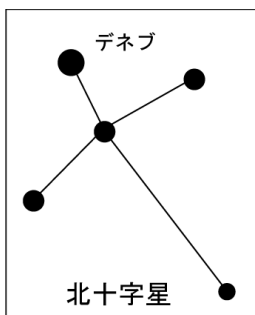
この日の月は、18時30分すぎに東の空から昇ります。このころは、まだ高度が低いので、もう少し後の19時~20時ころが見やすくなるでしょう。なお、今年の中秋の名月は、本当の満月です。このため、肉眼では、まん丸の月に見えるでしょう。

ところで、月を詳しく見ると、白い所と黒っぽい所があります。この違いを見て、昔の人は月にさまざまな姿を想像しました。



図は、さまざまな国で見られた月の姿です。日本で一般的に有名なのが、もちをつかうさぎでしょう。しかし、国が変わればほかの姿もいろいろ考えられました。皆さんも、月にどんなものが見えるか、実際の空でご覧ください。

★北十字星と南十字星



21時ころ、頭の真上にはくちょう座が輝きます。このはくちょう座の星の並びのうち、左の図の星の並びを、北十字星(きたじゅうじせい)と呼びます。いっぽう、南十字星(みなみじゅうじせい)と呼ばれる十字の星の並びは、右の図のようになります。ただ、松山からは、残念ながら南十字星を見ることはできません。

さて、同じスケールで並べて、この二つの十字の星を見ると、北十字星がかなり大きいことが分かります。いっぽう、南十字星は小さいのですが、明るい星が近くに並び、夜空ではたいへん目立つ存在になるそうです。

